

かわら版

NO.7

中間報告会と第2回ワークショップ を開催しました

第1回ワークショップの後、各学校や就学前施設の保護者の方から懇話会の開催依頼があり、多くの方のご意見をワークショップやこの事業へ反映するために懇話会へ参加してきました。そしてこの度、いただいたご意見をもとに中間報告会と第2回ワークショップを行いました。

当日は、保護者の方や地域の方など多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。

□日時・参加人数・対象

中間報告会：令和元年8月31日（土）9：00～10：30・31名・多度地区小中学校 保護者の方

ワークショップ：令和元年9月7日（土）13：30～16：00・35名・公募による多度地区の方

□テーマ

「第1回ワークショップ以降に開催した懇話会等の内容について」

「第1絞り込み候補地について」

□場所

多度まちづくり拠点施設

1 資料説明

これまでの経緯と
第1絞り込み候補地
について



第1回ワークショップ後、6月10日の多度地区PTA連絡協議会で、各学校での懇話会と事業へのアンケートが企画され、6・7・8月に小・中学校や未就学施設にて懇話会を開催していただきました。懇話会では、基本構想・基本計画の素案説明、事業の疑問や建設候補地を絞り込む際の配慮事項等について対話してきました。

中間報告会とワークショップでは、これまでの経緯とこれまでの対話内容を受けた検討用地の比較と事業の基本コンセプトから第1絞り込み候補地を『多度小中学校とその周辺』としたプロセスについて説明しました。

2 テーブルトーク 全体共有

8月31日は4グループに分かれてテーブルトークを行い、最後に全体共有を行いました。

※テーブルトークの概要は裏面に掲載してあります。



3 ふりかえり シートより (一部抜粋) (8月31日のみ 実施)

- ・多度のまちづくり全体について、前向きな話し合いができたと思う。多度町全体の道路整備や学校づくりなど、広い目で見て考えていくことの必要性を感じた。市にはぜひ予算をとってもらい、ゼロから多度のまちづくりを考えてもらい、実行していくことで多度がより発展していくようにして欲しいと思う。そのことが子どもたちにとっていい環境になっていくのではないかなと思う。
- ・小中一貫校を作ることにそもそも反対の人、小学校だけ統合して欲しい人、今まで何も詳しく知らない人等いろんな人がいるので、今回参加していない人も含めてこれから小学校へ入学される方たちへの説明、情報、アンケート等必要なのでは？
- ・当初小中一貫校について少し否定的な意見ももっていましたが、ワークショップで意見交換をすることで何が不安なのか等の意見が共有できました。多度町の中心になるような交通等の整備をしたうえで、一貫校を作ればそれが町の中心になると感じました。
- ・今回初めての参加です。話が進みすぎていて今までの経過が分からない為、何が何からなかった。
- ・多度小中学校へ候補地が決められていくということで、とりあえずまずは一歩進んだ感じがして嬉しく思います。どこであってもメリット・デメリットはありますが、決めればそこでいかにいいものを作っていくかになると思います。地域の方の理解、そしてまだ反対意見をお持ちの方に丁寧な説明で進めていけたらと思います。

4 中間報告会 について (8月31日)

テーマ

- ・ 絞り込むプロセスの中で比較で多くの視点となり、事業の取組の充実に向けた重要な視点となる「中心地」の市の捉え方や考え方が皆さんとズレてないか。
- ・ 『多度中小学校とその周辺』の説明した課題で大切な視点や欠けている視点等はないか。

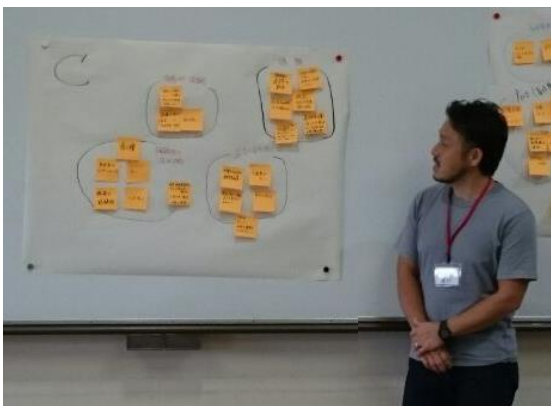
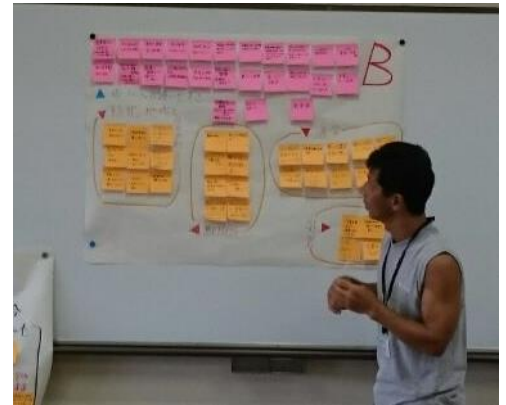


Aグループ

候補地を1つに絞る際に、大切な視点として出された「中心地」は、子どもの通学になるべく偏りがない平等である場所、子どもを見守ってくれる人がいる場所、駅に近く人が集まってくる場所。多度中小学校は、中心地であるが、中心地であるがために、敷地（駐車場を含む）や通学路の広さ、工事の際の子どもの学校生活が心配であると意見が出された。しかしながら、これらの課題への対策は、強みである「地域のつながり」を活かして、地域の人との協力で進めていけば、学校づくりがまちづくりへと発展し、学校を中心とした新たな多度の中心地になっていくと思う。

Bグループ

「中心地」は、駅や商店街が近く、避難所があり、学校に徒歩で通える子どもが多く、人の目が多い場所。それは、駅が近いと電車通学も可能となり、また公共施設や商店街が近いとまちの活性化にもつながっていくため。安全・安心については、災害発生時に避難所として利用できるし、また、多くの地域の目での見守りが期待できることから、防犯面だけでなく、地域との関わりについても多度中小学校とその周辺に造ると効果的である。ただし、通学に関しては学校周辺の道路について、幅を広く、暗い道は明るく事故のないよう安全面を改善してほしい。このように、学校だけでなく周辺環境も整備することで、子どもが安全に安心して通学することができ、地域と関わりながらまち全体が活性化していければいいと思う。



Cグループ

「中心地」としてイメージする場所は、人口が多く、子どもの多くが徒歩通学でき、交通の便がよい所、多度をイメージできる所等である。子ども達のより良い教育環境を整備するためには土地の広さが大事であり、十分な広さを確保してほしい。確保ができないのであれば、中心地にこだわらなくてよい。今後、多度中小学校とその周辺が事業候補地とするのなら、中学校の跡地の利用も検討してほしい。また、通学路や工事等における子どもの安全確保や騒音への対応が必要。併せて、地域とのつながりについて十分検討してほしい。「まちづくりの視点」も加味し、駅前の商店街の活性化も検討されるとよい。

Dグループ

参加できない人にも資料等でもっと情報提供や見通しを示さないと、足を運びにくいし賛成反対も判断できない。小中一貫校を必要とは考えていないため、提案に対して具体的に對話することが難しい。規模が大きくなれば教員の目が届きにくくなり、いじめ等の課題が心配。地域のつながりも薄れる。一方、多度中小学校とその周辺の用地を考えると、多くの人から距離が近いことや駅から近いことは良い。中小学校周辺は道が狭いため、学校周辺だけでなく歩道の安全性の確保が重要。拡張がうまくいかなかったときに、狭い学校とならないか、開校が遅くならないか。工事に伴い、在学生の学習環境に悪影響が出ないような配慮が必要。



5 ワークショップ について (9月7日)



- ※ワークショップはテーブルトークを行っていません。
- ※お話しいただいた内容を項目別にまとめさせていただきました。

多機能複合化について

- ・公民館が小中一貫校の狭いところにいるという危機感で参加している。そのことへの説明をして欲しい。
- ・多機能複合化で危険を招くことに対し、教育委員会から返事が一度もされていないし、止めてほしいという発想はないのか。
- ・セキュリティのことで誰でも入って来られると困る。色々な人が来るのと子どもだけとは話が変わる。
- ・多機能複合化はこれまでテーマにする機会があったのに行ってない。何を造るか分からないのに面積は決まらない。これで候補地が決められるのか。順番がおかしい。
- ・ワークショップの意見にこたえて、多機能複合化はこれだけに絞りますとか、給食センターをつけます、ということなら反対しなくなる。防災支援センターをつくるなら反対しません。
- ・多機能複合化で何をやるのか市から何の提案もされていない。
- ・前回と同じで多機能複合化の反対が多かったのに対し、市がどのようにしていくのか答えがなかった。

防災について

- ・養老断層という活断層がすぐ近くを通っている、と昔から言われていてそのことに言及がない。
- ・活断層は直下にはないがすぐそばにあることが分かっているのに△評価になっていて恣意的である。地震学者に話を聞いたのか。安全かどうか検討したのか。

事業候補地について

- ・現在の中小と周辺を足した敷地は歪で学校には不都合な形と思うができるのか。
- ・中小の敷地が反対という意見でもよいか。
- ・規模を決められず進められない。規模が大前提。

小学校の統合について

- ・小学校だけでも統合を進めてはどうかと前回提案した。その提案は考えてくれたのか。意見を聞いてくれるのか疑問である。
- ・小学校の統合を先に進めるという考えがあってもよいのではないのか。

ワークショップの進め方について

- ・ワークショップの2回目開催予定の7月に待っていたが何の連絡もなく、今回1週間もない期間の締め切りで出欠の案内が来た。
- ・今日まで懇話会を多く開催していたのに、なぜワークショップをしなかったのか。
- ・まちづくりの視点の中で学校を作るのだったら、まちを構成する様々な方々の意見も聞くべきと思う。
- ・学校の話なのに教育委員会が何故出てこないのか。教育委員会がもっと前にでてやっていくべきと思っている。
- ・皆さんの知識がそろっていない上に、会議毎に総括していないから混乱してしまう。

6事業 について

■ 9月議会 市長答弁

地域住民、保護者、教職員等の方々からご意見を伺ったところ、保護者、教職員等の方々からは、多度中小学校とその周辺は、防災の面でも安心な場所であるとともに、まちの中心であることから、徒歩通学の子どもや地域の見守りが多く、建設場所としては最適な場所であるという意見がある一方、まちの中心であることから、学校を建設するための敷地の確保や通学路が狭いのではないかなど、いくつかの不安や御懸念についての意見をいただきました。

またワークショップに参加された地域住民の方からは、特段、場所に関する意見はありませんでしたが、複合化に対するご意見を多数いただきました。

これらのご意見をもとに、総合的に勘案いたしました結果、多度中小学校とその周辺を、事業候補地として最適な場所であると判断しました。

(中略)

先ほどワークショップの中で、複合化に対するご意見を多数いただきましたとお話しましたが、事務方からも報告を受けていますが、以前、現在、多度の地区市民センターがある、元総合支所跡地を、小中一貫校の場所としたらどうだろうかというときの話をもとに反対をされている方がたくさん出たと伺っています。

私たちは、多機能化、複合化については、例えば、学童保育は学校の中にあっても良いのではないか、給食センターは学校の中にあつた方が良いのではないかという視点で考えているので、決して今のセンターであるとか、まちづくり拠点施設を学校の中に入れるということは、全く考えておりませんので、そのあたりは、反対されている方たちにも、しっかり、お伝えしながら事業を進めてまいりたいと考えております。

- ・多機能複合化については、市長答弁にある考えのもと、小中一貫校を多機能複合化することで相乗効果のある機能や、まちづくりの観点から事業候補地にあることで最適な機能について、ご案内していますように、これから、多度地区の保護者や地域、教職員の方々と対話しながら決定していきます。
- ・第2回ワークショップ開催については、全戸配布しましたかわら版No.5において「現在、各小学校の保護者の方から懇話会の開催依頼をいただいています。こうした声にお応えし、多くの方のご意見をワークショップやこの事業に反映していきたいと思えます。次回のワークショップは準備ができ次第、ご案内します。」とご連絡していましたが、きちんと伝わっていないことは課題と受け止め、今後は丁寧に周知させていただきます。

次回の予定

現在、これまでのワークショップや懇話会等の内容をもとに次回の詳細内容や資料などについて検討しておりますので、**次回のワークショップは準備ができ次第、ご案内します。**

【事務担当】 教育環境整備室 24-1354 まちづくり推進課 24-1462